

おとといから梅雨に入った小国は、青田が広がり、日に日に田んぼの苗が青さを増してきています。保さん、とうとうお別れですね。あなたがリンパ腺のがんだと聞いたのは、いつだったでしょうか。昨年暮れ、あなたは自らの死期を悟り、死後の様々な後始末を息子さんの明彦さんに託しましたね。そして、三月末に小千谷病院に転院し、再び明彦さんからお手紙をいただき、私は小千谷病院に訪ねました。病巣が脳にまで達し、歩行にも、会話にも差しさわりが出てきたとのことでした。四月二十九日、その時、あなたはベッドから起きて、話すことができました。元気な姿にお会いできたのは、とうとうその日が最後となってしまいました。あなたの奥さまやエ子さんのお別れは、七年前、平成二十三年一月十五日しきりに雪の降りしきる日でした。

保さん、あなたの生前の最大の功績は、此の檜沢の集落行政への熱意でした。ちようど平成十六年中越地震のあった年、檜沢の総代でした。集会所の前にテントを張って、避難してきた人たちに炊き出しを食べさせ、道路が不通で、帰れなくなつたヒーターの効いたバスの中を避難所として、お年寄りを避難させました。その年の夏は大雨が降り、檜沢川の堤防が目の前でくずれてゆくのを見て、どうすることもできない悔しさみんなど見つめる事しかできませんでした。地震後、壊れた集会所の改修工事もあなたが担当されました。その前二年間は私が総代でした。これもあなたから頼まれれば、断れなかつたのです。あの頃檜沢総代のなり手がなく、あなたと高橋一夫さんが交互に総代をつとめていたのです。檜沢のあおぞら公園の設立、墓へ上がる公園の東屋の設置などもあなたの成し遂げた事業でした。

二番めに思い出されるのは、同級生、日本近代文学川端康成の研究者、成蹊大学名誉教授羽鳥徹哉氏の葬儀参列です。羽鳥さんは、二〇一一年二月ヤエ子さんの亡くなったのと七五歳で亡くなったのです。あの時、初雪の中をあなたの運転する車で茂野伸一さんと東京日野市の葬儀場まで参列したことが思い出されます。中学の同級生で、優秀だった同級生の羽鳥氏の死別の衝撃がいかに大きいものだったか、優秀な保さんあなたも事情さえ許せば、上級学校へ進学できたのに、その悔しさがひしひしと伝わってきました。若いときの青年団活動、タクシー運転手、織物会社外交員と転々として、そして小国森林組合の組合長、あなたはいつもリーダーとして活躍されていたのです。

三番目は石川啄木や良寛、そして大逆事件で死刑になった小千谷出身の内山愚童への思い入れです。内山愚童は時の天皇制を批判したといつて、明治政府の手で死刑になってしまった人物です。この顕彰事業を小千谷の人達に働きかけたのは、あなたでした。そして、この愚童の木ねん石碑建立に尽力され、今小千谷の発電所J P 第2貯水池脇、中道パークに記念碑が建っています。この碑の建立に小国で尽力されたのはあなたでした。地元の文学者への深い情熱と権力者への反抗精神があなたの背骨にシャキッと筋を通していたことです。総代の新年のあいさつで

なにとなく今年は良き事ある如し元日の朝晴れて風なし

という啄木の歌を引用したのもあなたでした。総代挨拶としてこんなあいさつは前代未聞の事でした。そして檜沢集落史の発行にも原稿を寄せてください、小国文化フォーラムの役員として長く尽力くださいました。平成十四年から始まった小国の「もちひとまつり」もすっかり小国の祭りとして定着しました。小国のもちひとまつりも最初の頃からあなたが関わってくださいました。何よりもよく本を読み、思い立つと野麦峠や足尾銅山跡など遺跡の旅に出かけ、そして批評精神を失わなかつた保さん、その行動力と鋭い批評精神はいつも教えられました。今はあの世で、先に旅立った奥様やエ子さんと共に語らっているでしょうか。

あなたの優秀な子供さんは金沢美術工芸大学教授明彦さんはじめ、それぞれ、あなたの果たせなかつた夢を立派に成し遂げておられます。ほんとうに長い間すっかりお世話になりました。どうかやすらかに眠り下さい。お疲れ様でした。さようなら。

平成三十年六月十三日

檜沢 高橋 実